

展覧会
2020.4
2021.3

2020. 4/4(土) - 4/12(日)

休館日:4/6

子どもと楽しむ mima

みたり、よんだり、つくったり。
クイズやパズルなどもあり、
子どもから大人まで楽しめる
展覧会。

観覧料

一般
510円
(420)

高大生
250円
(170)

中学生以下
65歳以上
無料

2020. 4/24(金) - 7/5(日)

休館日:月曜、5/7
*5/4の月曜は開館

変幻する詩情の花

三岸が生涯描き続けた花。伸びやかに
明るい花もあれば、「これが花か」と
思わせる前衛的なものなど多彩。画
風の変遷とともに各期に描かれた
花々に焦点をあて展示。



《花》1932年

アートギャラリー北海道
太陽の森

ディマシオ美術館コレクション

幻想絵画の鬼才ジェラルム・ディ
マシオ(1938年生)の世界最大の
油彩画で知られる北海道新冠町
のディマシオ美術館。そのコレク
ションから油彩や素描計十数点を
紹介します。



ジェラルム・ディマシオ 1979年
太陽の森 ディマシオ美術館蔵

観覧料

一般
510円
(420)

高大生
250円
(170)

中学生以下
65歳以上
無料

*7/1(開館記念日)は観覧無料!

イベント

所蔵品展示解説

解説:北海道美術館協会ボランティア
日時:火~土曜日(祝日と午後後にイ
ベントのある日を除く)の午後1時~3時
*事前予約の団体には上記の時間
以外にも解説します。10日前までに
011-644-8901へお電話ください。

マ〜ル記念日

[今年度の予定]
11月28日(土)

当館が舞台の絵本
『おぼけのマ〜ルとち
いさなびじゅつかん』

(え・な・か・い・れ・い・ぶ・ん・け・た・ら・う 2008年
中西出版)にちなんだ楽しいイベント。



2020. 7/16(木) - 8/30(日)

休館日:月曜、8/11
*8/10の月曜は開館

節子がつづる好太郎

妻で画家の三岸節子は、三岸生前の
面影を伝えるエピソードや作品につ
いて多くの文章を残しました。深い洞察
と愛惜に満ちたその言葉とともに、三
岸作品を見直します。

アートギャラリー北海道

太陽の森
ディマシオ美術館コレクション

観覧料

一般
510円
(420)

高大生
250円
(170)

中学生以下
65歳以上
無料

*7/17(道みんの日)は観覧無料!



《少女の像》1925年

2020. 9/11(金) - 11/29(日)

休館日:月曜、9/23、11/24
*9/21、11/2、11/23の月曜は開館

ロマンティストの札幌
一好太郎の原点

緑に恵まれ、モダンな札幌の風
物にふれる中で、豊かな感受性
を育み、上京後も毎年のように
帰郷した三岸。札幌での交遊や
制作、画壇に与えた影響などを
紹介。

アートギャラリー北海道

mima-no-me
#みまのめ(VOL. 6)

北海道の若い作家の多彩な
表現を紹介するシリーズ企画
の第6回。



《ゴブラのある風景》1932年頃
北門信用金庫蔵

観覧料

一般
510円
(420)

高大生
250円
(170)

中学生以下
65歳以上
無料

○このほか、講演会や土
曜セミナー、子ども向けの
プログラム等を予定。詳細
は随時、ホームページや
らし等でご案内します。

[今年度の予定]

・ミニリサイクル各日程
5月23日(土)、6月27日(土)、7月17日(金)、
9月26日(土)、11月7日(土)、3月13日(土)



2
展
示
室
で
の
音
楽
会

特別展 2020.12/19(土) - 2021.2/14(日)

休館日:月曜、12/28~1/4、12
*1/11の月曜は開館

札幌国際芸術祭2020

Of Roots and Clouds: ここで生きようとする

3年に1度、札幌市内各所で開催される
札幌国際芸術祭。mimaでは、三岸好太
郎が没した「31歳」に着目し、北海道ゆか
りの作家をはじめ、アーティストたちが31
歳の時に制作した作品をコレクションと
あわせて展示します。



青山悟《東京の朝》2005年 個人蔵
撮影:宮島啓
©AOYAMA Satoru,
Courtesy of Mizuma Art Gallery



三岸好太郎《飛ぶ蝶》1934年



原良介(sprout drawing)2006年
高橋龍太郎コレクション

特別展観覧料

札幌国際芸術祭2020のチケット料金は2020年9月頃発表予定です。
詳しくは札幌国際芸術祭ホームページ(<https://siaf.jp>)をご確認ください。

2021. 3/4(木) - 4/11(日)

休館日:月曜、3/31、4/1~3

エキゾチック・イメージ
—上海から道化へ

三岸の23歳での中国旅行はロマンティ
ストとしての本質を目覚めさせ、「道化像」
を生み出すきっかけになりました。独自の
表現を切りひらいた20歳代後半までに
焦点をあて、変貌の軌跡を探ります。



《支那の少女》1926年

観覧料

一般
510円
(420)

高大生
250円
(170)

中学生以下
65歳以上
無料

【特別展をのぞく展覧会の観覧料について】

*中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの
方等は無料。
*高校生は5/5(こどもの日)・特別展会期中をのぞ
く土曜日ならびに学校の活動での利用は無料。
*道立近代美術館「近美コレクション」との共通券
もご利用いただけます。
一般830(670)円 高大生410(270)円
*()内は10名以上の団体料金。
※休館日を変更することがあります。

ART
GALLERY
HOKKAIDO

アートでつながる、北海道。

[アートギャラリー北海道]は、道内
の美術館がネットワークでつなが
るとともに、若い作家たちへの活
動の場の提供などによって、北海
道全体がアートの舞台となること
を目指す取組みです。

mima

MIGISHI KOTARO MUSEUM OF ART, HOKKAIDO
北海道立三岸好太郎美術館
홋카이도립 미기시 고타로 미술관



MIGISHI KOTARO (1903—1934)

Migishi Kotaro was born in Sapporo in 1903, and died at the age of 31 in 1934.
He continued to change his style of painting throughout his short life as an
artist, reflecting contemporary trends in art. But as well as his ambitious
ventures into new styles, his own poetic sentiment and delicate sensibility,
found in all his works, make him a prominent artist in the history of modern
Japanese art.

His early works with a naïve predilection such as "A Girl holding a lemon"
(1923) and "Brother and his eldest daughter" (1924) were widely appreciated
and drew much attention. Traveling China in 1926, he was stimulated by the
European culture in the colonial city of Shanghai. That led him to sublimate his
romantic nature to a series of works depicting clowns and marionettes with
touches of Fauvism from 1928 to 1932. From the end of 1932, interested in
Avant-Gard painting, he tried the abstract style, and a remarkable method
scratching a thick-painted surface "Orchestra" (1933).
In his last year, he showed an inclination to Surrealism, particularly painting
butterflies and seashells. Just before his death, he set about building his atelier.
Before its completion, however, he succumbed to disease.

三岸好太郎 (1903—1934)

三岸好太郎が1903年出生于札幌，于1934年去世，享年31岁。
《手捧柠檬的少女》(1923年)、《兄长及他的长女》(1924年)等表现出朴素派倾向的初
期作品广受好评，倍受瞩目。1926年去中国旅行，在上海租界受到了欧洲文化
的刺激。这个经历提升了其浪漫的气质，并于1928~32年期间诞生了以野兽派风
格的笔触描绘小丑与提线木偶的一系列作品。从1932年末起，他对前卫绘画感兴
趣，尝试了抽象风格，看起来如《管弦乐》(1933年)般，刮乱绘画颜料的表面这一特
殊方法。最晚年，他倾向于超现实主义，特别是描绘蝴蝶与贝壳。在即将去世前，
他着手建造工作室。但是在即将竣工前，却病倒了。
他在作为画家的短暂人生中，反映同时代的美术思潮而不断改变了画风。但也不
断果敢地挑战新风格，在所有的作品中都能看到他独有的诗情画意与细腻的感受
性，因此他成为日本近代美术史中杰出的代表。

미기시 고타로 (1903—1934)

미기시 고타로는 1903년 삿포로에서 태어나 1934년 31살로 세상을 떠났습니다.
"레몬을 손에 든 소녀"(1923년)과 "형과 그의 장녀"(1924년) 등 소박파에 대한
경도를 보여주는 그의 초기작품은 널리 평가되어 주목을 받았습니다. 1926년에
중국을 여행하며 상해 조계에서 유럽문화의 자극을 받았습니다. 그 체험은 그의
로맨틱한 자질을 승화시켜 1928-32년 아수파시 터치로 어릿광대와 마리오네트를
그린 일련의 작품이 태어났습니다. 1932년 말부터는 전위회화에 관심을 갖고
추상적인 스타일, 그리고 "오케스트라"(1933년)에서 보여주는 것처럼, 그림 물감의
표면을 긁는 독창적인 수법을 시도했습니다. 만년에는 초현실주의(슈레알리즘)에
빠져들어 특히 나비와 조개껍질을 그렸습니다. 세상을 뜨기 직전에 아틀리에
건설에 착수하였으나 완성을 보기도 전에 병상에 누워버렸습니다.
그는 화가로서 짧은 생이었지만 동시대의 미술사조를 반영시키며 화풍을 계속
바꿔갑니다. 그러나 과감하게 새로운 스타일에 도전함과 동시에 그의 모든
작품에서는 독자적인 시적 감각과 섬세한 감수성을 볼 수 있으며, 그로 인해 미기시
고타로는 일본 근대미술사의 걸출한 존재가 되었습니다.